

鈴木善幸元首相をしのぶ

弔問記帳所に町民ら953人

山田町名誉町民である鈴木善幸元首相が七月十九日、東京都新宿区の国立国際医療センターで亡くなりました。九十三歳の長寿でした。鈴木氏は昭和五十五年七月、本県出身五人目の第七十代内閣総理大臣に就任。「和の政治」を掲げ、外交では「国際協調」を目標に激動期のかじ取りを担いました。「善幸さん」として国民に愛され、親しまれた鈴木元首相。生涯にわたり漁業振興に情熱を注ぎ、国の発展に大きな功績を残しました。



鈴木俊一代議士環境大臣就任に伴う表敬訪問で、沼崎喜一町長一行に対応する鈴木元首相＝平成14年10月・鈴木善幸事務所

鈴木善幸氏は、本町の大きな網元の家に生まれました。昭和十年、農商務省水産講習所（現東京海洋大）を卒業。二十二年四月の第二十三回総選挙で旧社会党から出馬し初当選、二十四年一月の衆院選は民主自由党から出馬し当選しました。

自民党結成後は、昭和三十五年七月の池田内閣に郵政大臣として初入閣。三十九年七月から第三次池田内閣で官房長官を務めました。四十年六月には佐藤内閣で厚生大臣、四十三年十一月、初の総務会長に就任。以後、佐藤、田中、大平各政権を通じて通算十期を務め、抜群の調整力を発揮しました。

昭和五十一年十二月、福田内閣で農林大臣。五十五年七月、

大平正芳首相の急死を受けて第十代総裁に選ばれ、第七十代首相に就任しました。「和の政治」「増税なき財政再建」などを掲げ、臨時行政調査会の設置、国鉄など三公社の分割・民営化への路線を敷いたほか、参院に比例代表選挙制度を導入しました。

昭和五十七年十一月二十七日、鈴木内閣総辞職。首相在任は二年四月月でした。平成二年一月に政界を引退、衆議院議員在籍は四十三年に及びました。

この間、水産業の振興に多大な貢献を果たし、戦後のあらゆる水産政策・制度の創設にかかわり、水産の道筋をつくりました。政界引退後も県漁港協会会長として平成十一年まで毎年夏、漁港検診で来県し、沿岸各地の



首相就任後、初の郷土入りでは、鈴木善幸先生を一目見ようと役場前（旧山田小学校敷地）に町民8,000人が集まりました＝昭和57年9月



漁港検診で漁港の整備状況を確認する鈴木善幸元首相＝平成10年8月・船越漁港

漁港の整備状況を視察。漁民との触れ合いを大切にしました。首相就任後から人柄の良さと温和な風貌ゆえ、国民から「善幸さん」と親しみを込めて呼ばれた鈴木元首相。首相就任から二年後の昭和五十七年九月、郷土入りを果たし、式典会場となった役場前（旧山田小学校敷地）には町民八千人が集まりました。この時、首相に対し町から名誉町民第一号の称号が贈られています。

役場に弔問記帳所を設置し鈴木氏を悼む

町では七月二十日、役場庁舎前に哀悼の意を示す半旗を掲げ

たほか、沼崎喜一町長は、弔問のため急きょ上京しました。二十一日と二十二日には、役場玄関ホールに弔問記帳所を設置。二日間で町民ら九百五十三人が記帳に訪れ、遺影に手を合わせていました。

鈴木善幸氏に大勲位

鈴木善幸元首相（九三）に正二位の位階と大勲位菊花大綬章の勲章が贈られました。死去した首相経験者に大勲位菊花大綬章が贈られたのは、小淵恵三、竹下登両氏らに続いて戦後九人目。吉田茂、佐藤栄作、中曽根康弘各氏は生存者叙勲として受

鈴木善幸氏の歩み

- 明治44年1月 本町の鈴木善五郎・ヒサご夫妻の長男として生まれる。
- 昭和22年4月 社会党から衆議院初当選
- 24年1月 民自党(後に自由党)から出馬し再選
- 27年11月 自治政務次官
- 33年6月 地方行政委員会委員長
- 35年7月 第1次池田内閣で郵政大臣
- 39年7月 第3次池田改造内閣で内閣官房長官
- 40年6月 第1次佐藤改造内閣(1)で厚生大臣
- 41年8月 第1次佐藤改造内閣(2)で厚生大臣
- 51年12月 福田内閣で農林大臣
- 52年2月 日ソ漁業交渉で訪ソ
- 55年6月 宏池会会長
- 7月 鈴木内閣発足
- 56年1月 「北方領土の日」(2月7日)閣議決定
- 3月 第2次臨時行政調査会発足
- 57年9月 鈴木総理郷土入り。山田町名誉町民の称号が授与される。
- 57年10月 自民党総裁選不出馬を表明
- 11月 鈴木内閣総辞職
- 61年7月 衆参同日選で連続16回の当選果たす。
- 61年9月 宏池会会長を退任
- 平成2年1月 政界を引退

「善幸さん」を悼む

「善幸さん」(あえてこう呼ばせていただきます)の訃報はマスコミ関係者から突然知らされました。晴天の霹靂とはこのことでしょうか。町の統一要望で上京した際には、ご自分の事務所で要望を聞いていただき、町の近況報告には懐かしそうにうなずいておられました。昨年6月に上京の折、ご自分の事務所を閉鎖するので蔵書類を町に寄贈したいとお申し出があり、すぐ翌月には送っていただきました。思えばあの時がお会いした最後の機会となってしまいました。

7月20日、急きょ上京しご自宅に弔問しましたが、生前そのままのような穏やかなお顔を拝することができ、まさに大往生であったと思います。

「巨星墜つ」「水産翁を悼む」など新聞各紙の追悼記事を読むにつけ、あらためて町にとってかけがえのない方を失ったとの思いが湧いてきます。今はただ故人の足跡を偲び、私たちに託された思いをさらに具現化するように努力することをお誓いするばかりです。

「善幸さん」安らかにお休みください。

山田町長 沼崎喜一



役場玄関ホールに設置された弔問記帳所には、2日間で町民ら953人が記帳に訪れました